主婦會支部総會終る

新支部長にアンケート

主婦会では十二日の第五回代議員大会を控えて、各支部とも去る六日、八日にそれぞれ支部総会を終了した。

なお、この結果昭和三十二年度の新役員をつぎのように決定した。

(宮浦支部)
支部長　仲子　フジ

(四山支部)
支部長　尾田恒子

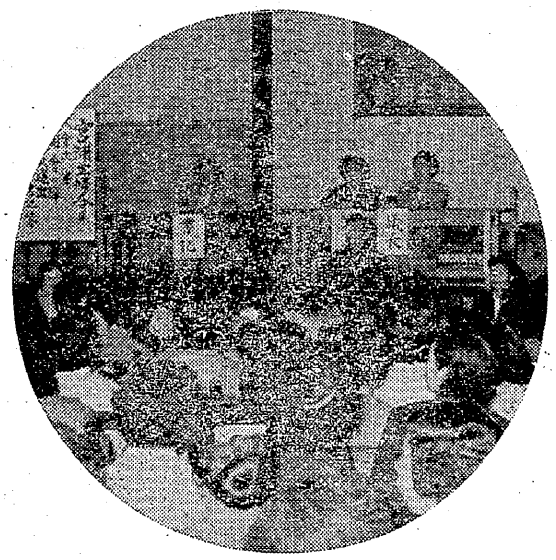
(三川支部)
支部長　五島　頼子

(本所支部)
支部長　板井ミスエ

(港務支部)
支部長　古賀　澄江

(興作支部)
支部長　上形富士子

(本部役員)
会長　河野広子(宮)
副〃　野田ヤエ(本)
〃　藤枝文子(三)
〃　南　光子(四)
会計　山下ちか(作)
監査　吉崎栄子(港)
〃　大倉フジエ(三)
総務　永江美由紀(三)
文教　高木千恵子(宮)
福祉　平山律子(四)



アンケート

婦人部では改選の結果新しい支部長として就任されたつぎの六人のみなさんにたいして、新しい門出を祝うとともに、つぎの要領でアンケートを行つてもらいました。

(1)支部長になられ大変ご苦労と思いますが、ご主人は支部長になられるあなたにどのように云われましたか。

(2)主婦(または支部長)としての希いは。

(3)組合にたいする希望。

宮浦　仲子ふじ

(1)こんど生活をよりよくしたいという気持ならしつかり頑張れといつて励ましてくれました。

(2)会員の人たちに無理のいかないそして家庭生活の平和ということに重点をおいてやつて行きたいと思つています。

(3)もう少し主婦会の方の指導育成をやつてもらいたい。こんどいろんな会社側の圧迫があると思いますので、いろいろと育成のしかたに協力して頂きたいと思います。

四山　尾田恒子

(1)うちの分会は主婦会結成当時から、いろいろマサツがあつたという経過があり、そのためにもしつかりしなければならないと思つています。主人もこういう点を考えに入れて「しつかり頑張れ!」と励ましてくれました。

(2)支部長の抱負としては決定事項の実践化です。会員の融和、時間の厳守、連絡の徹しようなどをできるかぎり頑張つてみたいと思つています。

(3)組合と主婦会とは別々に歩くということでなしに、表裏一体となつてすすみたいと希望します。

昨年の秋、組合十周年記念の緑が丘連合分会で「愛の炭鉱節」を発表、好評を得た楓町演劇同好会はその後「姉弟」「留守家族」「原爆許すまじ」と、つぎつぎに新作を発表して自主劇団に新風をまきおこしていたが、そのどこの同好会を積極的に育成して劇団にしようとの声が高まり、五月五日楓町で劇団「なかま」と劇団名を制定した。会員三十名で子役までそろえた、素人劇団としては割合にいろいろな年令層をふくんだものである。

責任者は植木鉄男氏で、演出グループもあり脚本から演出、上演まで一切自分たちの手で行うという強力なものである。

また今秋の文化祭のときまでに「監獄部屋」出演者三十数名という大作を上演したいと取組んでいる。

なお現在までのこれらの作品の脚本はすべて酒井善為氏(政治局員熊本県議)の紹介になるもので「政治活動の余暇の仕事としては素人はだし」とさる演劇指導者が評していたが、こんどの同劇団の将来は大いに期待されるものがある。

脚本ならびに演出担当の酒井氏は一作ごとに会員の演技力が目にみえて向上して行くので、芸術家としての素質はすべての大衆がそなえているものと痛感しております。この「なかま」には楓町の人たちだけでなくどこの分会の方でも加入していただくことを歓迎いたします。

将来は農村に進出して労農提携に一役果したいとおもつています。

と語つている。

(緑ガ丘発)

劇団「なかま」発足

緑ガ丘楓町の演劇同好会

三川　五島頼子

(1)私の場合は新しくなつたわけでもなく、一応覚悟はしていましたが主人もそれを知つて「到とう断わりきれなかつたな」といつて、皆さんがそう云われるならやむを得ないだろう、しつかりやれといいました。

(2)主婦としての希いは、こういう忙しい仕事をしながらも子供をどんなふうにスコヤカにして行くかということを考えております。

(3)少くとも組合の選挙にたいして一番考え、要望します。組合員はスツキリした形で選挙をやつてもらいたいと望んでおります、私もそれをのぞみます。

本所　板井ミスエ

(1)副、が長になるということは従来の行動面に企画性を必要とする仕事であるので、お前にできるかどうかあぶないもんだが、勉強する奴にはカナワンよ、と彼は少し心配そうにして居ります。

(2)時には場所掃除で二、三日ユツクリ休みたいと思いますが、亭主の給料では遠い未来の夢でしかない様です。当分の間は足元を見つめてセツセと働くより外は有りません。

(3)毎年の行動方針に組織づくりの問題が出て居りますが仲々むずかしい仕事だと思います。各地域毎にでも腰を落ちつけた学習活動を本年度は指導して頂き度いと思います。

港務　古賀澄江

(1)主婦会の活動が組織強化と、主婦としての、みのりに一致する様に努力して貰いたい……とんな言葉だつたと思います。

(2)よく解りませんが世界の革新的な運動の流れと主婦との結びつき助け合いがもつともつと深められる事を待つています。

(3)職場人と家庭婦人との違い、こんな点で暖い理解を寄せて戴いての御指導を御願いしたいと思います。

三作　上形フジ子

(1)支部長になるとは全然思つていませんでした。まさかと思つていましたが、そのポストについた以上はしつかり頑張れと協力してくれました。

(2)支部長としての抱負といつてもまだ突然で正直のところ、何が何だかわかりません。とにかく皆さんと一緒になつて話合い、すすんで行きたいと思つています。

(3)お互いに協力して行きたいと希望します。

学芸会や展覧会

若葉での「こどもの日」

五月五日は「こどもの日」だ。この日こどもたちの未来を祝つて地域でも楽しい催しを行つたところもあり、つぎの時代のにない手となるよい子たちも、この日は小さい胸に楽しい空気を一ぱい吸い込んで眼をかがやかせていた。

緑が丘若葉町三区(三十二戸)では五月四日、若葉町集合所で幼稚園から中学生までのこどもたちだけの文化祭を午後六時から行つたちようど五日の「こどもの日」が緑ガ丘小学校のPTA総会だつたため、一日繰上げて行事を四日にやつたのだつた。

主催者は若葉こどもを守る母の会で、三区のお母さんたちがつくつている母の会。とくにこの行事のための経費は簡易保険の団体払込の手数料をあてており、こどもたち全員にお菓子を配布した。また文化祭えの作品提供者には帳面が参加賞としてやられた。

こどもたちの図画、書方が集会所の壁一ぱいにはりだされており、合唱、独唱、劇、その他こどもたちの得意な芸術がつぎつぎと展開され、楽しい団らんの夕べを過した。とくに、この催しもの準備、運営の一切が全く子どもたちの手で行われ、その自主的な活動が高く評価されている。

なお、この会は中学を卒業して他郷に出て働く若人たちに送別を贈り、電車停留所まで見送りを行うなど温かい行事を行つている。

会長は中野(中学)副会長草野(小学)会計小合瀬(幼稚園)君らで、平和を守る組織とともにこどもを守る組織の結成が強く叫ばれている今日、その先駆としての役割は非常に重要であるとみられている。

(緑ガ丘発)

幻燈会も開く

なおこの若葉分会の他にも、四山支部の宮内分会、三作支部の銀水社宅地域分会ではそれぞれ幻燈会をよい子たちのために上映されたが、一ぱいにつめかけたよい子たちで非常に盛況であつた。

佐教組を激励

緑ガ丘小PTA総会

五月五日「子供の日」に、緑ガ丘小学校PTAでは、年次PTA総会を開催した。

当日は雨天にもかかわらず、父兄が多数参加し、午前八時半より授業参観、十時より、二教室ぶつ通しの臨時講堂が満員となり廊下まではみ出す状態で活発な討論が行われた。

討議の重要な問題は、内部の運営の問題のみでなく、義務教育全額国庫負担の基本的な点が追及されPTA会費が学校諸用費に使わねばならないのは、現在自民党政治の教育圧迫からきているものとして、こんどPTA活動のみでなく選挙活動にでも教育を守るために闘うべきであるとの結論が出ていた。

なお佐賀教組に対する警察弾圧に対して、酒井県議その他の人から訴えが行われ、佐教組には激励、検察、警察に抗議を打電したいとの動議が出され、万場一致採択し有意義な総会を終了した。

けい肺懇談会開く

五月五日(日)労働会館で午前十時からけい肺、外傷性背すい患者懇談会が行われ、約二百名が出席していろいろと懇談が交された。

現在組合内でこの患者の該当者は三九〇名、この日雨天のためか出席者は半数であつたが、生活苦と病気と闘うこの人たちは真剣なおももちで切実な現状を訴えていた。

組合長の挨拶、厚生部長の経過報告ならびに中央情勢の報告があり蒲池次長から入替採用の説明が行われて懇談に入つた。

問　けい肺の場合の打切補償とは

答　三年を指すのか五年を指すのか　けい肺の場合は打切補償には関係がないので五年を指す。

問　けい肺一、二、三度は公傷ではないが即時採用にいう適用を受けているか、どうか。

このほか、入替採用後の医療補償をやつてもらいたい、これと同時に五年後の療養補償もかくとくしてもらいたい。などの要望が出ていた。とくに、この五年後の療養補償の問題は切実であるだけに、非常に大きな要望となつていた。

このほか、平均賃金のスライドはどのようになつているかなどの質問が行われた。

雨に思う

きさらぎの雨、初夏の青葉しぐれ、雷雨、秋時雨、みぞれ、四季のある日本の雨は、それぞれに野情味豊かで、わび、さびなどいう日本個有のデリケートな情緒を生み、芸術を培い、人情味ゆたかな人間性をはぐくんできた。

雨は日本人の生活から切り離せないもので、それだけ、四季おりおりの雨にたいする私たちの愛着もひとしおであつた。

ところが…である、この数年来地球を蔽う大事な私たちの空気の層は全く死の灰に悪染し、それが四季の雨ごとにSR90という塵よりも細微な目に見えぬ物質を地上にまきちらしているのである。

SR90は雨に溶けて地上に降りそそぐと、野菜に附着し魚獣の肉に滲透し、米や牛乳にまで溶りこんで、それらを食べた私たちの肉体に入つて骨髄に停る。停つたSR90は肉体を侵すはもちろん、染色体を侵し子孫えの遺伝因子にまで魔手をのばすという。

米国もソ連も水爆実験は止そうとはしない。止さなければ、半減期七〇年というSR90はますます地上に積蓄し、私達の肉体の中に量をましてゆく。

いまや、私たちのいとしい雨は娼婦のように汚れ果ててしまつた。梅雨どきのようにどめどなくなつた雨を眺めながら、いまはただ祈るばかりである。

(本所　一主婦)

草むしり

まさか、梅雨のハシリではなかろうが、いやに毎日毎日根気づよく降る雨だろうか。

洗濯物が乾かぬ、子供たちの遊び場がない……などなど。主婦たちの悩みはへるどころか、増えるばかりである。

七日、忘れたようにポツカリと青空がみえ、五月の陽光はさんさんと降りそそいだ。久し振りの好天気に主婦の心も晴れあがつたが、四山保育園の庭園には雑草がはびこつている。

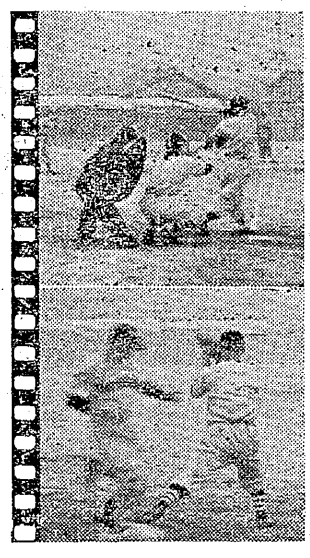
みんなで草をむしろう!とよい子たちのお母さんたちは、この日を待ちかねたように、セツセと草むしりに精を出し、気持のよい汗を流していつた。

優勝いづこ?

三鉱野球始まる

三鉱野球大会は五月五日(日)開催の予定であつたが、折あしくちようど雨にたたられ、やむなく七日午後四時から港務所、三作の各グラウンドにわかれて球戦の火ぶたを切つた。

この日三作グラウンドでは宮浦チームと四山チーム、一方港務所グラウンドでは港務所チームと本所チームの対戦となつた。

四山、宮浦戦では諸戦はやくも一点を奪つた宮浦が優位に立ち、つづく四山も攻闘しチャンスをつくりエキサイトする試合ぶりをみせるかと思われたが、一点も入れずあたら折角のチャンスを逃がすにいたり2A対0で宮浦が快勝した。

一方、本所、港務戦はホームグラウンドで闘う港務断然優勢で4対0でこれも港務が快勝した。翌八日は三作グラウンドで三川、三作の対戦、結果は三川が2A対0で三作を降した。優勝戦は十二日(写真は宮浦、四山戦)